

# 映画女優 高峰秀子展

【左上】「稲妻」(1952年)  
【右下】「二十四の瞳」(1954年)



Exhibition: Hideko Takamine, Film Actress

# 映画女優 高峰秀子展

2004年 2005年  
9月3日金 — 3月27日日

\*毎週月曜日および11月29日(月) - 12月6日(月)、12月27日(月) - 1月4日(火)、  
2月14日(月) - 2月17日(木)は休室

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室(7階)

開室時間: 午前11時 - 午後6時30分(入場は午後6時まで)

料金 = 一般200円(100円) / 大学生・シニア70円(40円) / 高校生40円(20円)

\*料金は常設の「展覧会 映画遺産」の入場料を含みます。

\* ( )内は20名以上の団体料金です。小・中学生は無料です。

\*大ホールで企画上映をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

\*シニア(65歳以上)の方は、必ず年齢を証明できるものをご提示ください。

\*無料観覧日 = 11月3日(水) 文化の日

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター

協力(五十音順): (株)秋山庄太郎事務所 池田真魚 (財)川喜多記念映画文化財団

木村尚子 田沼武能 (財)土門拳記念館 日本ドリームコンテンツ(株)

(株)マーランド 松下電器産業(株) 明治製菓(株) 森永製菓(株)

(株)リュウスタジオ



Exhibition: Hideko Takamine, Film Actress



# 映画女優 高峰秀子展

1929(昭和4)年の子役デビューから1979(昭和54)年の引退宣言まで、映画女優高峰秀子の足跡は、そのまま日本映画の豊かな歴史の骨格といえるものでした。しかも、それが激動の昭和史、日本人の運命の表現でもあったことは、時代の中での彼女の存在感の大きさを物語っています。

アイドル“デコちゃん”として庶民に愛される一方で、自分の立場を客観的に認識する賢明さは、一流の文化人たちとの交流も生み、人間観察の鋭い洞察は、やがてすぐれたエッセイスト高峰秀子に発展していきます。

本展は、この不世出の女優の半世紀にわたるキャリアを軸としながら、しばしば映画の枠を超えて展開された彼女の多彩な活動を、多方面の作品・記録・資料をもとに検証する試みです。それが、二十世紀最大の大衆文化であった映画の意味を、歴史と文化とのかかわりの中で再検討するきっかけになれば幸いです。高峰秀子はそれに値する女優なのです。



社会式 製菓 梨 治 明

Exhibition: Hideko Takamine, Film Actress

4

1. 高峰秀子直筆原稿「木下恵介」
2. 「カルメン故郷に帰る」(1951年) カラーフィルム付きしおり
3. 高峰秀子旧蔵スクラップブック
4. 明治製菓ポスター
5. デビュー当時のシナリオ(1929-33年)



1



2



5



3

【企画上映】

映画女優 **高峰秀子**

Screening: **Hideko Takamine, Film Actress**

2004年9月3日(金) - 11月19日(金)

会場=東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール

出演作品80本以上を連続上映

企画上映

NFC  
東京国立近代美術館フィルムセンター  
**National Film Center**  
The National Museum of Modern Art, Tokyo



〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6  
お問い合わせ: ハローダイヤル 03-5777-8600  
東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>

▼交通  
東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

